

NPO 日本朗読文化協会主催

ワークショップ「言葉の音を感じ、文章のメロディーを奏でる」

7月6日(木) または 8月26日(土) 14時～16時
終了後に質疑応答の時間を取ります。参加費 3000円

河崎早春の朗読ワークショップ

どちらも同じ内容で行いますので、ご都合の良い方の日にお申し込みください。
港区の会場(申し込まれた方に、追ってご連絡します)
自分の癖を知り読みをチェックする第一歩。あなたの朗読、頭でっかちになっていませんか？

文章には音楽のように旋律やリズムがあります。ところが細かいところに拘るあまり、全体から醸し出す音楽が聞こえなくなってしまうのです。頭でっかちになったり、感情に頼ったりすると、わざとらしい表現しか出てきません。また、音楽の聞こえない朗読は聞いていると疲れます。言葉が音楽を紡ぎ出すと、面白いように朗読も生き生きしてきますよ。

「明るく読んで」「もっと軽く」なんて言われたらどうしますか？「明るくするなら、笑えばいいの？高い声を出せばいいの？」いいえ、そんなことはありません。言葉は人によって捉え方が違うもの。高低、緩急、強弱などは頭でコントロールできるけれど、頭では制御できないのが音色(ねいろ)です。音色を変化させるには、イメージを体で感じるしかないのです。頭で想像したつもりでも、身体が反応しなければイメージしたことにはなりません。自然に息づかいを変えていく方法を、ちょっとした動きの中でつかんでいきます。

「え…こんなやり方で朗読するの？」

そんな具体的で目から鱗のワークショップ。

体と声が自由に変化していくのを実際に体感していただきます。

硬い音、柔らかい音、安定した音、不安定な音、軽い音、重い音、暗い音、明るい音、
ホッとする音、緊張感のある音…

そんな様々な声の音色を自由に操って見たくありませんか？

何を読んでも同じになってしまう。

変えているつもりなのに、変化しないと言われる。

そんなあなたに、何かのヒントを与えてくれるワークショップです。



指導 河崎早春 (かわさき さはる)



俳優、ナレーター、朗読家。20代前半に朗読を俳優の故巖金四郎、臼井正明に師事。
第1回ギィ・フォワシィ短篇劇コンクール優勝。
枠にとらわれず、様々なスタイルで朗読を展開。
青山学院大学日本文学科理事。